



Table with columns for insecticide names and various biological stages (egg, larva, pupa, etc.) and target organisms (bees, mites, etc.).

注)卵:卵に、幼:幼虫に、成:成虫に、マ:マミーに、蛹:蛹に、胞子:胞子に、巣:巣箱の蜂のコロニーに対する影響
残:その農薬が天敵に対して影響のなくなるまでの期間で単位は日数です。数字の横に|があるものはその日数以上の影響がある農薬です。
\*は薬液乾燥後に天敵を導入する場合には影響がないが、天敵が存在する場合には影響がある恐れがあります。
記号:天敵等に対する影響は◎:死亡率0~25%、○:25~50%、△:50~75%、×:75~100%(野外・半野外試験)、◎:死亡率0~30%、○:30~80%、△:80~99%、×:99~100%(室内試験)
マルハナバチに対する影響は◎:影響なし、○:影響1日、△:影響2日、×:影響3日以上
マルハナバチに対して影響がある農薬については、その期間以上巣箱を施設の外に出す必要があります。影響がない農薬でも、散布にあたっては蜂を巣箱に回収し、薬液が乾いてから活動させて下さい。
・本評価表は会員の負担により維持、訂正が行われています。転載にあたっては所定の転載料を事務局までお支払くださるようお願いいたします。
・表中のエルビニアカトホウは乳剤との混用はできませんが、3日以上の散布期間であれば近接散布が可能です。またハチルススフチリスは混用できない剤とでも、翌日以降の近接散布は可能です。
・表中の影響の程度及び残効期間はあくまでも目安であり、気象条件(温度、降雨、紫外線の程度及び換気条件等)により変化します。
上記の理由により、この表が原因で事故が発生しても、当協議会としては一切責任を負いかねますのでご了承の上、ご使用下さい。
この表はエクセルver7で作成していますので、パソコンで参照する場合にはver7以上で使用して下さい。セルにカーソルを近づけると出典が表示されます。表示のない場合はIIBCおよびPCSの資料です。